

あり、又著花疎密大小の別あり、葉の初出に青紅のかはるあり、吉野といふあり、花密なり、大抵山櫻といふは花疎なり。○下略

〔重修本草綱目啓蒙山果篇急就〕
山櫻桃 ヤマザクラ 一名棣子

山ニ自生アル故、ヤマザクラト呼ブ、市中ニ種テ花ヲ賞ス、諸櫻ヨリ早ク開ク、單葉ニシテ落易シ、數少キヲヤマザクラト云、花多ク簇リ開ヲヨシノザクラト云、花小ナルヲチゴザクラト云、共ニ花後實ヲ結ブ、形正圓三分許長莖下垂ス、初メ綠色熟シテ赤色、或ハ黒色兒童サクラボント呼ブ、木皮和方ニ多ク用ユ、藥舗ニサクラノ皮ト云、樺皮トハ別ナリ、凡ソ樺櫻ノ類、皮ノ條理横ニシテ、他木皮ノ條理堅ナルニ異ナリ、山櫻桃ヲ大和本草ニ、ニハザクラト訓ズルハ非ナリ、ニバザクラハ多葉郁李又千葉郁李ト云、又本經逢原ニ、櫻桃一種小者名山櫻桃ト云、ハ非ナリ、集解ニモ數說アリ、時珍ノ說ニ、葉長尖不團ト云ヲ以テ、ヤマザ克拉トスベシ、唐山ニテハ櫻ヲ櫻桃ニ混ズルコト多シ、名花譜ニ說ク所ノ櫻桃ノ形狀ハ全ク櫻ノコトナリ、コノ外考證多シ、櫻ハ明ノ宋景濂ノ詩アリ、

〔玉勝間六〕花のさだめ

花はさくら、櫻は山櫻の葉あかくてりてほそきが、まばらにまじりて、花しげく咲たるは、又たぐふべき物もなく、うき世のものとも思はれず、葉青くて花のまばらなるは、こよなくおくれたり、大かた山ざくらといふ中にもしなぐの有て、こまかに見れば、一木ごとにいさゝかかはれるところ有て、またく同じきはなきやうなり、又今の世に桐がやつ八重一重などいふも、やうかはりていとめでたし、すべてもれる日の空に見あげたるは、花の色あざやかならず、松も何もあをやかにしげりたるこなたに咲るは、色はえてことに見ゆ、空きよくはれたる日、日影のさすかたより見たるは、にほひこよなくて、おなじ花ともおぼえぬまでなん、朝日はさらなり夕ばえも、